

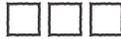
Point

1

尊厳の保持と自立支援



得点源

Check 

問題 1

Aさん(82歳、女性)は、アルバイト店員の息子(56歳)と二人暮らしである。Aさんは、3年前にアルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)と診断された。現在、要介護2と認定されて訪問介護(ホームヘルプサービス)と通所介護(デイサービス)を支給限度額まで利用している。Aさんは、身の回りのことに常に見守りや介助が必要であり、一人で外出して道が分からなくなり、何度も警察に保護されている。

訪問介護事業所が、アドボカシー(advocacy)の視点からAさんと息子を支援する場合の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自分の食事も作ってほしいという息子の要望に、対応できないと断る。
- 2 息子の外出時は、Aさんが部屋から出られないように施錠することを提案する。
- 3 Aさんと息子に相談の上、社会福祉協議会に見守りボランティアの派遣を働きかける。
- 4 息子に、市内に認知症家族の会があることを知らせる。
- 5 町内会に、回覧板でAさんと息子の状況を詳しく知らせるように働きかける。

(平成27年度 第28回・問題2)

解説

- 1 × 息子は「自分の食事も作ってほしい」というような**要望をしていません**。
- 2 × 部屋から出られないように施錠することは**身体拘束**にあたり、**禁止**されています。
- 3 ○ Aさん本人と息子に**相談**のうえ、Aさんや息子に**代わって**、社会福祉協議会に見守りボランティアの派遣を**働きかけて**います。
- 4 × **アドボカシー**とは、**代弁**、**権利擁護**を意味します。息子に認知症家族の会があることを知らせることは、**アドボカシーという視点**からは、あまり関係ないといえます。
- 5 × 本人たちの**同意も得ず**に、**個人情報**を勝手に漏らすような働きかけは不適切です。

正答 3



アドボカシーは、権利擁護と訳されます。

- 利用者の基本的人権が侵害されることがないよう擁護する
- 利用者のニーズや思いを代弁したり、利用者に代わって機関・組織等に働きかける



得点源

Check 

問題 2

Aさん(78歳、女性)は介護老人福祉施設で生活している。脳血管障害(cerebrovascular disorder)による左片麻痺で、杖を使って歩行し、自力で移動していた。Aさんは、廊下や食堂でいつも職員や他の利用者に声をかけ、誰にでも気遣う人だった。ある日、食堂のいすに足が触れて転倒して、捻挫の痛みで歩くことができなくなり、車いすでの移動になった。捻挫は1週間ほどで完治したが、Aさんは歩くことを拒み、現在でも車いすでの移動を続けている。Aさんは徐々に口数も少なくなり、「歩くことが不安だ。周りに迷惑をかけてしまう」と言い、何に対しても消極的な様子がみられた。Aさんに対する介護福祉職の関わりとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんは口数が少ない様子なので、できるだけ話しかけないように心がける。
- 2 Aさんの自立を考えて、再び歩くことができるように何度も声をかける。
- 3 仲の良い利用者に、頑張って歩くように励ましてもらう。
- 4 Aさんの担当の介護福祉職に、再び歩くように説得してもらう。
- 5 食堂のテーブルやいすの配置を見直して、一緒に歩いてみようとして働きかける。

(平成28年度 第29回・問題1)

解説

- 1 × 話しかけないことで、さらに**孤立化**し、**不安も大きくなる**ので、適切ではありません。
- 2 × **Aさんの望む生活を実現**することが自立を支えることであり、「**再び歩くこと**」を**目標として決めつけて**声かけを、しかも何度も行うことは、適切ではありません。
- 3 × Aさんは、**口数も少なく**、**何に対しても消極的**で、**抑うつ状態**にあると考えられます。抑うつ状態のときなどは、**励ましは逆効果**になることが多いので、適切ではありません。
- 4 × **説得すること**は適切ではありません。
- 5 ○ Aさんが**自分から「歩いてみよう」と意欲を取り戻す**ために、**テーブルやいすの配置を見直して**、**不安を取り除く**ようなかわりは、適切です。



こう解く

正答 5

Aさんが**望む生活**を実現することが、Aさんにとっての「**自立**」です。「再び歩くこと」が必ずしも第一目標とはなりません。「励まし」は、安易に行うと逆効果です。

- 選択肢4「説得」はNGワード
- 選択肢1「話しかけない」も、選択肢2「何度も声をかける」も、Aさんの気持ちを無視した対応であり、不適切